

加工用ホウレンソウ栽培における緩効性肥料を用いたワンショット省力施肥技術

ワンショット施肥を導入することで作業時間及び経費の軽減が期待できる

背景・目的

- 消費者の安全志向により国産の加工用野菜が見直され、栽培面積は増加傾向にあります。
- 加工用野菜は大面積で栽培されることが多いため、作業の省力化が求められています。
- このため緩効性肥料(ゆっくり効く肥料)を用いたワンショット施肥(基肥のみの施肥で追肥をおこなわない)による省力施肥技術を開発しました。

成果の内容

- 追肥作業を省くことができます。
- ワンショット施肥でも肥料が長く効くため、肥料切れしません。
- 10a当たり収量は、慣行と比較してワンショット施肥では10%以上多くなります。

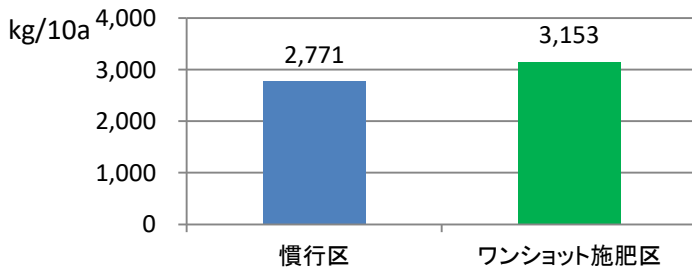


図1:ホウレンソウの収量



写真1:ホウレンソウの生育

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 加工用ホウレンソウにおいてワンショット施肥を導入すると、施肥に要する作業時間及び経費の軽減が期待されます。

	追肥時間 (時間)	収入 (円)	施肥費用(円)		施肥量(基肥、追肥) (kg)	10a当たり
			肥料費	追肥労賃		差引 (円)
慣行栽培	2.0	191,199	18,519	3,440	30	169,240
ワンショット施肥栽培	0.0	217,557	20,504	0	27	197,053

- 1) 慣行栽培は、窒素肥料として硫酸を使用
- 2) ワンショット施肥栽培は、窒素肥料として硫酸：LP20：LPS30を4：1：3で混合したものを使用

- 普及対象地域・面積 県下全域の加工用ホウレンソウ栽培(760ha)

留意点

- ワンショット施肥(27kg/10a)の窒素肥料は、窒素として硫酸：LP20：LPS30を4：1：3で混合した肥料です。施肥量は地区の基準に応じて決めてください。